

# 平成24年度 広報・広聴特別委員会活動報告

## 1. 本年度の活動方針

本特別委員会は平成23年5月に設置され、これまでも議会における広報・広聴活動のあるべき姿を調査・研究し、24年度から議会だよりの2色刷りを実施するなど、市民にわかりやすい議会の広報・広聴活動の充実に向けて、積極的に調査・研究に取り組んでいる。

今年度は、昨年度に引き続き、「読まれる議会だよりのづくりを進めるとともに、本会議中継や議会活動報告会及びシティミーティングなど、議会における広報・広聴の今後のあり方について調査を行ったところである。

## 2. 議会だよりの充実について

### (1) 議会だよりの状況

議会だよりは、平成12年1月の創刊以来、定例会の内容や議会のしくみ、最近の議会活動などを8ページにわたって掲載している。昨年5月発行分から、印刷方式をそれまでの白黒印刷から2色刷りに変更した。昨年度の本特別委員会でも要望が上がっていた項目であり、発行時期にあわせて色を変えるなど「見やすさ」「親しみやすさ」に配慮したところである。

しかし、今年度実施されたシティミーティング／議会活動報告会や市民団体などとの意見交換会、議会基本条例制定に関する説明会など、市民と懇談する場においては、依然として「議会だよりを読んでいけば生じることがないのではないか」と思われる質問や意見が出されており、議会だよりが読まれるようになったという実感に乏しい状況が依然として続いている。

### (2) 本特別委員会での活動内容

本特別委員会では、今後の議会だよりのあり方について考える中で、まず、各委員の編集能力の向上を図ることが重要と考え、編集に関する勉強会を数回に分けて実施した。他自治体の使用している資料を使って、見出しやレイアウトなど編集の基本的な項目を確認

#### 議会だよりに関する協議経過

したり、文章の細かい表記については、専門書を活用したりしながら、議会だよりの完成度を高めるための作業を1年間行ったところである。

以前に比べて、表現の統一性や、表記のメリハリをつけることで、見やすさ・読みやすさともに向上

開催日	協議内容
H24.07.13	議会だよりの編集に関する勉強会
H24.08.10	議会だよりの編集に関する勉強会
H24.10.05	委員作成の議会だよりの案の内容検討
H24.11.15	委員作成の議会だよりの案の内容検討
H24.12.19	議会だよりの編集に関する勉強会
H25.02.26	今後の議会だよりのあり方に関する協議

してきているのではないかと思われる。

また、これらの研究を進める中で、各委員作成案による議会だよりの検討も行った。現在の議会だよりは、一般質問を行った議員や事務局で作成した原稿の校正作業がメインとなっていることから、検討時には、掲載写真の収集方法の改善や、Q & Aコーナーの設置などさまざまなアイデアが集まったところである。今後の議会だより編集には、委員の考えを今まで以上に反映していくことで、議会だよりにおける改善の余地はまだまだあることを確認したところである。

### (3) 年間の活動をふまえて

本特別委員会では、年間を通して、議会だよりがより多くの市民に読まれるためには、内容の充実を図る必要があると考え、次にあげる3つの項目について取り組むべきであると考えたところである。

1点目は、一般質問に関する質問者の氏名、写真の掲載についてである。

議会だよりが読まれない理由の一つに、議員の顔が見えないということがあげられる。議会だよりは全8ページ中、半分にわたる4ページを一般質問に割いている。現在の掲載方法では、だれがどんな質問をしたのかということを理解することが難しく、「自分たちの知らないところでまちづくりが進められている」というイメージを市民が持った状態では、議会だよりを市民の手にとってもらうのは難しいように思われる。

一般質問については、質問者の氏名や写真などを掲載することで、市民の目に見える、市民にわかりやすい議会だよりにすることが、今後の議会だよりのあり方を考える上で重要であると思われる。

2点目は、掲載ページの増加についてである。

議会事務局に郵送されてくる他市町からの議会だよりを見ると、12～16ページ構成の議会だよりが多く、全国的にも同一の傾向が見られる。本市のように8ページにしているところはごく少数である。本市議会では、九州横断自動車道延岡線（現：九州中央自動車道）建設促進沿線議会協議会（平成14年度～）、政策提言議員協議会（平成20年度～）、シティミーティング／議会活動報告会（平成21年度～）など、議会だよりの創刊当時から比べても議会活動の範囲が広くなり、8ページで議会の状況を市民に伝えていくことが困難になりつつある。ページ数を増やすことにより、市民に議会活動の状況をよりわかりやすく伝えていくことが求められていると思われる。

3点目は、編集作業の見直しについてである。

現在、議会だよりの編集に関わっている議員は、本特別委員会の委員のみである。議会だよりは、本会議や主な議案の審査の様子、議会活動の様子なども掲載することから、審査等に直接携わっている常任委員会の委員長などにも協力を依頼し、説得力のある内容にしていくことも、議会だよりの充実につながるのではないかと考えている。

なお、委員による編集については、現在の校正中心の作業から、原稿作成の作成段階からの作業着手を目指し、今年度実施した勉強会を今後も継続すると

ともに、他市町議会の事例等の研究も行いながら、議員手作りの議会だよりとして市民の皆様にも胸を張って提供できる議会だよりを目指し、活動を継続していく必要性を感じたところである。

### 3. 本会議中継の充実について

#### 本会議に関する協議経過

##### (1) 本会議中継の状況

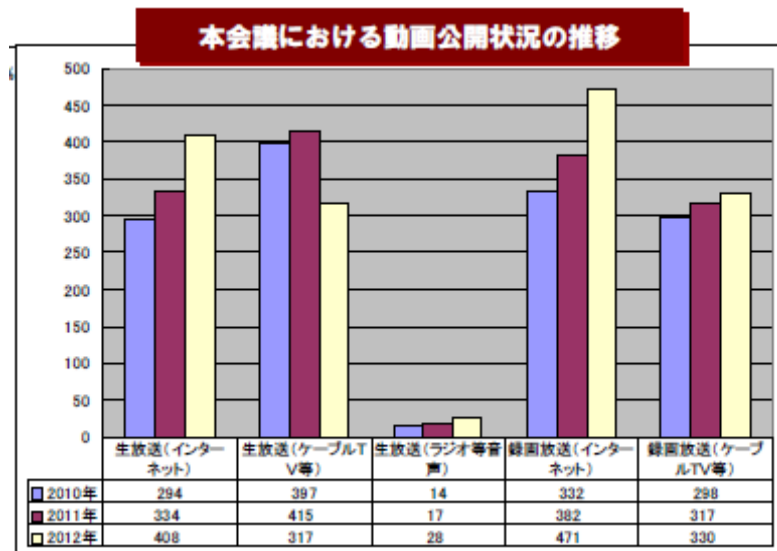
本会議中継は、平成13年6月定例会からケーブルテレビを通じて放映されている。また、24年3月定例会からはFMのべおかによる試験放送が行われており、屋外にいてもラジオがあれば本会議の様子を聴くことができるようになっている。

開催日	協議内容
H24.06.22	小林市の議会のインターネット中継の調査
H24.07.06	議会のインターネット中継に関する協議
H24.09.20	FMやテレビによる議会中継に関する協議
H25.02.26	今後の本会議中継に関する協議

本会議中継は生放送で放映されていることから、家にいることの多い市民や、昼間に時間的余裕のある市民には簡単に利用できると好評であるが、勤労者など仕事をしている市民にとっては、本会議の様子を把握することが困難な状況となっており、「議会の活動が見えない」と感じている市民の増加につながっている一因となっている。

##### (2) 本特別委員会での活動内容

本特別委員会では、今後の本会議中継のあり方について考える中で、まず、本市が取り組んでいないインターネット中継を研究したところである。全国的な傾向（右表参照）をみると、テレビ中継を上回る勢いで実施自治体が増加している。いつでも見たい時に見ることができるといった利用しやすい環境があらゆる世代に受け入れやすくなっていることが、普及の要因としてあげられるようである。



インターネット中継

類似都市における本会議中継の実施状況及び費用（平成22年度。単位：万円）

については、類似都市の実施状況を調査するとともに、小林市のユーストリームを活用したインターネット中継の取り組みを詳細に調査したところである。多くの都市でインターネット中継またはテレビ中継を実施しているが、両方とも実施している自治体は少ない。原因として、初期投資が数千万円にも及んだり、維持費が数百万円かかる場合があることがあげられ、実施へのネックとなっているようである。

本市の場合、インターネット、ケーブルテレビとも地元業者があることから、コストをできるだけ抑えた方法で実施していくにも簡単には進まない状況が考えられる。

自治体名	インターネット中継		ケーブルテレビ中継	
	年間維持費	初期経費	年間維持費	初期経費
宮崎市	112.0	580.0	※378.0	※980.0
都城市	—	—	304.5	3,800.0
小林市	30.0	—	—	—
串間市	未確定	533.0	—	—
大牟田市(福岡)	124.7	96.6	—	—
宗像市(福岡)	126.0	2,900.0	—	—
諫早市(長崎)	12.4	455.0	なし	なし
大村市(長崎)	0.0	22.0	なし	なし
八代市(熊本)	62.0	4,358.0	—	—
別府市(大分)	一括で契約（年間維持費300万円、初期経費1,000万円）			
佐伯市(大分)	—	—	134.2	不明
薩摩川内市(鹿児島)	5.5	45.0	—	不明
霧島市(鹿児島)	266.7	—	不明	不明
米子市(鳥取)	—	—	360.0	974.3
出雲市(鳥取)	—	—	なし	296.8
尾道市(広島)	61.9	62.4	なし	なし
三原市(広島)	109.9	—	不明	不明
廿日市市(広島)	6.3	344.4	37.5	930.0
岩国市(山口)	—	—	なし	8,500.0
周南市(山口)	—	—	101.3	2,829.0
宇和島市(愛媛)	なし	315.2	なし	なし
新居浜市(愛媛)	75.0	—	117.0	—
四国中央市(愛媛)	208.0	2,062.0	—	—

※印の数字は、平成25年2月のもの。

(3) 年間の活動をふまえて

議会を身近に感じてもらうための本会議中継を調査していく中で、特別委員会として考えるのは、情報伝達手段は多くあったほうがよいのではないかとということである。確かに、予算がかかることなど実現に向けての課題があるが、本会議を生放送で見る機会の少ない勤労者の方々に議会の動きを伝えることは、これからの議会にとって重要なことである。現在のテレビ中継などにかかる予算を見直しながら、インターネットによる議会中継の実現に向けて取り組みを進めることが必要ではないかと考える。

ラジオの試験放送は、仕事をしながらでも聴くことができると好評である。

コミュニティFM局による放送なので、市内全域をカバーできないのが難点だが、現在の状況においても、開かれた議会づくりを進めるのに効果があると思われる。

## 4. シティミーティング／議会活動報告会の充実について

### (1) 本市の状況

シティミーティング／議会活動報告会は、議会の仕組みや常任委員会の所管事務調査の報告などについて、民間の関係団体や地区などを対象に平成21年度から実施している。常任委員会単位で4つの班をつくり、それぞれで開催していたが、毎年見直しを行う中で、相手についての対象拡大やテーマの自由設定など内容の改善を図るとともに、広聴機能の強化を図ってきたところである。

### (2) 本特別委員会での活動内容

本特別委員会では、今年度のシティミーティング／議会活動報告会について、平成21年度に開催以降、運営的にも安定してきたことから、将来見込まれる開催数の増加にも対応できるように、開催回数を昨年度までの各班年1回から、年2回に増加した。

一方で、本特別委員会では、シティミーティング／議会活動報告会の発展形として、意見交換的な特徴を持つシティミーティングと、議会活動の報告的な特徴を持つ議会活動報告会に分けて開催することを協議したところである。

シティミーティング／議会活動報告会に関する協議経過

開催日	協議内容
H24.06.20	シティミーティング／議会活動報告会の今年度開催に関する協議
H24.06.22	シティミーティング／議会活動報告会の今年度開催に関する協議
H25.01.25	議会活動報告会に関する協議
H25.02.04	議会活動報告会に関する協議 ----- シティミーティングに関する協議
H25.02.26	今年度の議会活動報告会、シティミーティングに関する協議

平成24年度シティミーティング／議会活動報告会の実施状況

開催日	担当班	相手側	参加人数	テーマ
11/28	総務財政	沿線区長	17	地域公共交通
01/10	福祉教育	小中学校教諭	50	学力向上
01/11	〃	幼稚園教諭	21	幼児教育の充実
01/25	都市建設	延岡日向宅建協働組合	14	市営住宅の維持管理
01/29	総務財政	北方地区住民	13	地域公共交通体制づくりの推進
01/29	経済環境	北川町区長会連絡協議会	50	6次産業化、観光振興
01/30	〃	元気きたうら協議会	18	〃
02/20	都市建設	延岡管工事協同組合	11	安全・安心な水道水の供給

### （３）年間の活動をふまえて

シティミーティング／議会活動報告会については、各班年２回の実施についても十分対応できるようになったことから、議会における広聴機能の強化が図られた。

シティミーティングと議会活動報告会の２つに分けるという考えについては、議会基本条例制定特別委員会において、議会活動報告会の実施を同条例に組み込む方針を打ち出していることもあり、本特別委員会でも議会活動報告会を重視して実施するという意見で一致したところである。

議会活動報告会の運営方法については、シティミーティングと同様４つのグループに分かれて実施することになるが、メンバー構成は、市民からの幅広い質問にも対応できるようすべての常任委員会の委員を入れるように考えている。回数についても、市内１１地区１２カ所を１年間で開催することを前提に、定例会閉会后２週間後から１カ月の間に開くようにするなど、「シティミーティング／議会活動報告会」とは内容を大幅に変更したものを考えている。議会の情報を伝えるということを第一に、４月の条例制定直後から早速準備に入るなど、迅速な対応が求められる。

一方、シティミーティングについては、これまで意見交換の場という見地から、普段の会議ではなかなか聞く機会が少なかった現場の人たちの意見を聞く貴重な機会だった。議会活動報告会を重視することにより、開催回数の確保に課題が生じることになるが、本特別委員会での協議においては、シティミーティング／議会活動報告会の時と同様、常任委員会を単位とした構成で、所管事務に関する意見交換の会議として各班年１回以上開催することが望ましいのではないかという意見で一致したところである。

いずれにしても本特別委員会としては、次年度以降、議会活動報告会とシティミーティングという２つの手段を駆使して、議会における広聴機能の向上を図っていくための協議を進めていくことが必要であると考えているところである。